

## 口蹄疫 (FMD) とは

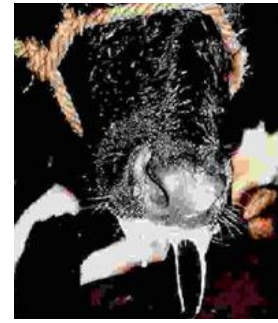
### 1 原因 (病原体)

口蹄疫ウイルス

(Picornaviridae Aphthovirus)

### 2 感受性動物

牛、めん羊、山羊、豚、水牛、鹿、いのしし等



【多量のよだれ】

### 3 症状

突然 40~41°Cの発熱、元気消失に陥ると同時に多量のよだれがみられ、口、蹄、乳頭等に水疱 (水ぶくれ) が形成され、足をひきずる症状がみられる。

### 4 発生状況

#### (1) 国内：

明治 41 年 (1908 年) 東京、神奈川、兵庫、新潟 522 頭

平成 12 年 (2000 年) 宮崎 (3~4 月：3 戸)、北海道 (5 月：1 戸)

患畜・疑似患畜 740 頭 [92 年ぶりの発生]

平成 22 年 (2010 年) 宮崎 (292 例) 患畜・疑似患畜 210,714 頭 [10 年ぶりの発生]

※日本は平成 23 年 2 月 4 日に清浄国に復帰。

#### (2) 海外：オセアニアや北米以外の世界中で発生がみられる。

### 5 診断

(1) 臨床症状の確認とともに、遺伝子または抗体の検出を行う。

(2) 水疱材料等からのウイルス分離を行う。

### 6 予防法

我が国では、多くの諸外国と同様に、原則として感染動物の摘発ととう汰による清浄化を実施。また、緊急接種用の不活化ワクチンの備蓄、水際での厳重な検疫を実施。

なお、本病の常在国等では不活化ワクチンが使用されている。しかし、ワクチン接種動物は、①感染を完全に防御できず、②感染動物はワクチン接種動物との判別が難しいことから、本病を見逃し、感染源となる可能性がある。

### 7 治療法、対策

(1) 治療は行わない。

(2) 発生した場合は、家畜伝染病予防法に基づき、まん延防止のため家畜所有者によると殺が義務づけられている。